

トーゴの大統領選挙

エヤデマ「終身」大統領への道

岩田 拓夫

はじめに

2003年6月1日、日本アフリカ学会学術大会では「アフリカ開発のための新パートナーシップ」(NEPAD)^{†1}に関するシンポジウムが開催された。また、フランスでは先進国首脳サミットを翌日に控え、途上国からの代表を招いた拡大会議が開催されていた。

その同日、NEPADでアフリカ開発の前提条件とされる民主主義、ガバナンスの改善、法の支配、人権尊重などに真っ向から逆行するトーゴにおいて、引退を約束したはずのエヤデマ将軍が堂々と立候補し、政敵G・オリンピオを排除するなかで大統領選挙が行われたことは、トーゴ政治を勉強してきた者にとっては失望を禁じえない。小稿では、国際社会からの関心の薄いトーゴの大統領選挙と選挙までの軌跡の検討を通じて、時代に逆行して政治的ガバナンスの改善に厳然と背を向け続ける独裁国家の有様を明らかにしてゆきたい。

1 エヤデマ体制の歩み

イラク戦争によって24年に及んだフセイン体制は崩壊したが、一方のトーゴではアフリカ最長(王制の国を除く)となる36年に及ぶエヤデマ独裁体制が続いている。

エヤデマは、1967年1月13日の自身二度目のクーデターによって政権を掌握したが、実質的な支配のはじまりは初代大統領S・オリンピオを暗殺した1963年1月13日の最初のクーデターに遡る。クーデター後、エヤデマは民政移管を行いながらも軍を中心に実権を確立していった。独立後のトーゴ40年の歴史は、最初の3年を除いてエヤデマ抜きでは語るができない。エヤデマは、トーゴ人の間に物理的暴力に基づく「恐れ」と自らの存在の神格化に基づく「畏れ」という二重の「おそれ」を作り出しながら体制を強化した。その後、国内外からの圧力、国民会議(CNS)召集による民主化プロセスの中で体制崩壊の危機にさらされながらも、現在まで支配を維持している(岩田[2000])。

†1 NEPADに関しては、大林[2003]を参照。

民主化プロセス挫折後のトーゴの政治的混乱を收拾するために、主要ドナー国の仲介、与野党間の協議を経て、1999年7月に「ロメ枠組み合意」(Accord-Cadre de Lomé) が結ばれた。この合意は、政治的に中立な選挙管理委員会 (CENI) の下で公正な国民議会選挙を実施し、国内政治、外交関係の正常化を目指すものであった(岩田 [1999])。合意締結の数日前にフランスのシラク大統領がトーゴを訪問した際には、エヤデマ大統領は第四共和国憲法(1992年10月公布)を遵守して、2003年に権力から退くことを確約していた。民主化プロセスの中で制定された憲法第59条で、共和国大統領の任期は5年間、再選は1回限り、通算でも2期までと定められた。したがって、新憲法制定後の1993年に当選し、98年に再選を果たしたエヤデマ大統領の最終任期は2003年6月で終了することになっていた。エヤデマの意外な物分りの良さは国内外を驚かせたが、結果からすると端から約束など守るつもりはなかったということになる。

2 2003年6月の大統領選挙

1. ロメ合意以降の政治状況

ロメ合意後、CENI設置をめぐる与野党間の協議は紛糾し、2000年3月に予定された国民議会選挙は実施されなかった。エヤデマを創設者とする一党制時代の国家政党「トーゴ人民連合」(RPT)は、野党の足並みの乱れを待つ一方で、国営メディアを通じて野党指導者への誹謗中傷を繰り返した。その矛先はエヤデマに暗殺された初代大統領を父に持ち、反エヤデマの象徴としてカリスマ的な支持を誇る「変革の諸力連合」(UFC) 党首オリンピックと、「革新行動委員会」(CAR) 党首で人権弁護士として国際的にも著名なアポイボに向けられた(岩田 [2002a])。

RPTは、エヤデマの三選を可能にするための憲法修正を画策し始めた。もっとも、民主化後のアフリカ諸国において大統領の任期制限を撤廃して、事実上の終身大統領制に逆行したのはトーゴが初めてではない。ブルキナファソ(1997年)、ギニア(2001年)、チュニジア(2002年)での憲法修正は、エヤデマを大いに勇気づけた。エヤデマの続投を求めるパレードが動員される一方で、野党の政治集会は内務省によって禁止された。エヤデマ一家の不正蓄財を報じた『ヌーベル・エコー』(*Nouvelle Echo*)紙は発禁にされ、情報源とされた労働党党首アメガンビには懲役3年半の実刑判決が言い渡された。アポイボは、首相に対する中傷罪で7カ月間投獄された(岩田 [2001])。

人権侵害、民主化の遅れを理由に、ヨーロッパ連合(EU)は1993年以来現在まで、トーゴへの援助を厳しく制限してきたが、エヤデマ政権への援助を正常化させているフランスや日本の姿勢が経済制裁の効果を減じている。しかし、エヤデマ体制は一枚岩ではなかった。昨年、アベヨメ=コジョ前首相やペレ元国民議会議長というRPT最高幹部2名が相次いでエヤデマに反旗を翻した(岩田 [2002b])。だが、最高幹部の反乱による中枢からの体制崩壊は、現実のものとはならなかった。

2. 大統領選挙までのプロセス

憲法修正に必要な国民議会議員の5分の4以上の賛成を確保するために、2002年10月末には野党のボイコットの中で選挙が強行された結果、RPTが81議席中72議席を獲得し、残りの議席もRPT寄りの政党が占めた。そして、ケニアでの歴史的政権交代のわずか数日後、トーゴでは12月30日に国民議会での憲法修正決議によって大統領の任期制限に関する条項が削除された。アフリカのメディアもトーゴの憲法修正を非難した。ケニアの



「トーゴの当局による報道（のあり方）とは……」（『ル・ルガル』紙 No. 314 2002年12月17-23日号）^{†2}。

Daily Nation (January 1, 2003) は、「エヤデマ、アフリカの恥」（“Eyadema a shame to Africa”）^{†3}と社説で報じた。

憲法、選挙法の修正によってエヤデマの終身大統領への道が開かれただけでなく、オリンピックの被選挙権を剥奪し^{†4}、二次（決戦）投票制度を廃止してより少ない得票でのエヤデマの当選を保証し、RPT 側からの代表が過半数を占めることによって CENI の国家権力からの政治的独立性を失わせた。野党関係者・ジャーナリストの拘束、非政府系新聞の発禁、野党幹部の発言を放送したラジオ局の閉鎖、治安強化の名目での野党活動の取り締まりが公然と行われている。これが、自称「アフリカのスイス」の現実である。EU は、このような状況の中で実施される大統領選挙に選挙監視団を送る意味はないと判断した。これに国連も同調した。トーゴで選挙監視を行った主な国際的な機関は、

アフリカ連合 (AU)、国際フランス語圏機関 (OIF)、西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS) であった。

野党側にも問題は多い。1993年、98年の大統領選挙において、野党統一候補の擁立に失敗してエヤデマ政権を延命させてきた。そして今回も、2002年10月に結成された野党連合 (CFD) は、2003年2月には CENI への代表選任をめぐるオリンピックの UFC が離脱し、勢力を一気に減退させた。結局、CFD は野党統一候補を出すことができず、各党がそれぞれに候補者を出した。悲観的な状況の中で投票日だけが近づいていった。国営メディアでは各候補者のテレビ演説が「平等」に放送されたが、野党候補者の功績、エヤデマ政権の批判に関する部分は当局の検閲で削除された。通信大臣は、メディアに対して CENI の公式発表以外の選挙結果報道を自粛するように圧力をかけた。

6月1日、トーゴでは国家権力の暴力による恐怖の下で投票が始まった。320万人が選挙登録し、5296の投票所で投票が行われた。野党支持者の多い南部地域では投票用紙が不足し、軍や体制支持者によって投票所が破壊された。しかし、不正と暴力の限りを尽くしてもエヤデマ側の心配は尽きない。というのは、大統領選挙の投票が行なわれる3日前の5月29日、投票当日に配置される軍・治安関係者による不在者投票が行われた際、野党候補に投票する者が続出したからであった。翌日、野党候補に投票した関係者が相次いで逮捕された。この事件は、エヤデマの権力中枢であった軍においてさえも抑制が効かなくなりつつあることを暴露するものであった。

トーゴの非政府系有力紙の一つ『ルポルテール』(*Le Reporter*) 編集長アメガ氏は、2003年のトーゴの大統領選挙を「大茶番」(*une vaste pantalon-nade*) と結論づけた。アメガ氏は、筆者に対して電子メールや電話で、野党支援者への選挙人登録証配布の遅

†2 <http://www.diastode.org/Nouvelles/nouvelle1291.html> (2003年6月10日アクセス) より転載。

†3 [http://www.nationaudio.com/News/Daily Nation 01012003/Comment/Editorial0101200310.html](http://www.nationaudio.com/News/Daily%20Nation/01012003/Comment/Editorial0101200310.html) (2003年5月24日アクセス)。

†4 修正憲法第62条では、大統領選挙までの12カ月以上の国内居住を候補者の条件としており、オリンピックの立候補を退ける根拠とされている。

延、投票時間変更の虚偽のアナウンスによる投票所の混乱、終了時間前の投票所の閉鎖、エヤデマ票以外の投票用紙の破棄、二重投票防止のインクが簡単に洗い流されたこと、野党候補支援者の逮捕、架空の投票所での重複投票、不正な選挙人登録、野党支持者への発砲などのエヤデマ側による選挙不正の数々の生の情報を紹介してくれた。

このような不正のオンパレードの中で CENI によって「公式」の選挙結果が報じられた。エヤデマは、57.22%の得票で再選を果たした。それに対して、オリンピックの支援を受けたアキタニ候補は、75%の票を得たと勝利宣言をおこなった。首都ロメは、野党支持者と治安部隊との衝突で騒然とした状況が続いた。また、国境を越えてガーナ側に避難する人々も現れた。当局は、騒乱を扇動しているとして UFC 幹部 2 名を拘束した。

選挙監視団を派遣した AU や OIF は、トーゴの大統領選挙は「自由」で「透明性」のあるものであると発表した。シラク大統領はエヤデマに祝辞を送った。

おわりに

－「アフリカのスイス」と NEPAD －

小稿では、2003年6月のトーゴの大統領選挙を通じて、アフリカの将来に暗い影を落としている現実を示そうと試みた。ザンビアのチルバ前大統領に対する逮捕や裁判は、アフリカの多くの国家指導者に政権の座から降りることを躊躇させている。エヤデマは36年間の支配の中で、トーゴ人に「エヤデマによる統治か？血の海か？」と二者択一を突きつけてきた。アフリカ最長となった独裁的な指導者に対して、トーゴを血の海にすることなくして政権交代を実現するためには、政治的圧力に加えて、さまざまな選択肢の中で政治舞台か

らの退場を説得することも必要である。

NEPAD では、アフリカ諸国の指導者自らがアフリカのガバナンスのあり方を反省し、これまでドナー諸国、国際機関から「押し付けられてきた」民主主義、人権尊重、法の支配といった政治的ガバナンスの改善を開発の前提条件として宣言した。なかでも、アフリカ諸国が抱える問題を解決するためにアフリカの手によって、相互に調査、説得を行うという相互審査メカニズム (APRM) に期待が集まった (岩田 [2003])。5カ国の指導者によって提唱された NEPAD も、現在では首脳会議参加国が20カ国を数えるようになりアフリカ大陸における広がりを見せている。

しかし、それは NEPAD に頑強に抵抗する独裁的な国家指導者がいなくなったことを意味するものではない。40年近い独裁を続けてきたエヤデマは、NEPAD に対して国内では黙殺を続け、アフリカ内外で NEPAD に対する批判が巻き起こるのを待ち侘びてきた。一方で、NEPAD を一つのプロジェクトとして位置づけながらも、政策決定・実施において機構面での曖昧な関係が残る AU に対しては、前身であるアフリカ統一機構 (OAU) の議長を務めた2000年に AU 制定法を採択したことから積極的な関与をアピールしている。現在のところ NEPAD は、権力維持に専心する指導者たちを制御する機能を持ち合わせていない。しかし、このような非民主的な方法の限りを尽した独裁者の権力維持が黙認されるようなことがあれば、NEPAD への信頼は大きく揺らぐことになるだろう。

今年の G 8 サミットでは、NEPAD を実行するアフリカ諸国パートナーシップを強化することが約束された^{†5}。日本政府は、対アフリカ協力イニ

†5 『G8アフリカ行動計画実施報告書』(2003年6月1日)
(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/evian/paris03/index.html> [2003年6月15日アクセス])。

シアティブにおいて、TICAD IIIでのNEPAD支援を明確に打ち出した。日本政府には、NEPAD推進のための政治的イニシアティブを発揮することが期待されるが、日本がNEPADに真剣に取り組んでいる国と取り組んでいない国に関する評価を示すことのインパクトは大きい。そこではNEPADに逆行する指導者、国の参加を認めないという毅然とした姿勢を示すことも必要である。

【参考文献】

- 岩田拓夫 [1999] 「ロメ合意とトーゴにおける複数政党制の展望」(『月刊アフリカ』11月号) 4～8ページ。
—— [2000] 「アフリカの民主化移行における国民会議の意味と役割——トーゴの事例から」(『政治経

済史学』第406号) 29～51ページ。

- [2001] 「ロメ合意後のトーゴ政治の展開」(『月刊アフリカ』12月号) 4～8ページ。
—— [2002a] 「アフリカの民主化プロセスにおける政党の役割——トーゴ共和国の事例から——」(『アジア・アフリカ研究』第42巻第3号) 82～106ページ。
—— [2002b] 「エヤデマ体制における内部崩壊の危機」(『月刊アフリカ』11月号) 14～18ページ。
—— [2003] 「NEPAD 相互審査メカニズム」(『NEPADの総合分析とTICAD IIIに向けた提言作成のためのアフリカ政策研究会議報告書』[外務省委託研究事業] 龍谷大学) 47～53ページ。
大林 稔編 [2003] 『アフリカの挑戦——NEPAD(アフリカ開発のための新パートナーシップ)——』昭和堂。

(いわた・たくお / 龍谷大学)